

第4章 防災・復興に関する取組事例

この章では、岩手県における防災・復興に関する具体的な取組事例を紹介します。

第1節 防災編

1 最大規模の災害に対応した防災体制の構築

- No. 1 大規模災害時の被災地支援に有効な広域防災拠点の設置
- No. 2 地方公共団体間の広域連携による受援・応援体制の構築
- No. 3 岩手独自の医療・福祉のネットワークの構築
- No. 4 次の災害に備えた災害対応業務の標準化や共有化の取組

2 教育と文化による備え

- No. 5 学校の防災体制の確立と防災教育の推進
- No. 6 津波被害からの教訓の伝承と防災文化の醸成

第2節 復興編

3 「災害に強いまちづくり」と「安全の確保」

- No. 7 多重防災型まちづくりの推進
- No. 8 子どもの健康と食の安全・安心の確保を重点とした放射線影響対策の推進
- No. 9 災害廃棄物の迅速かつ円滑な処理

4 被災者の生活再建支援

- No.10 こころのケアの推進
- No.11 地域医療の確保
- No.12 復興の中心的役割を担う市町村の行政機能向上
- No.13 被災者台帳システムの整備・運用

5 多様な参画による「開かれた復興」と「地域に根ざした復興」

- No.14 地域住民と多様な主体が連携した地域コミュニティの再生
- No.15 地域資源の発掘・活用による持続可能な地域社会の構築

6 文化財保護と芸能文化の保存・継承

- No.16 文化財保護に留意した復興事業の推進
- No.17 文化財保護を活かした地域社会の再興

【様式例】

取組項目名：防災編6項目（No.1～6）・復興編11項目（No.7～17）

第1節 防災編 1 最大規模の災害に対応した防災体制の構築
No. 1 大規模災害時の被災地支援に有効な広域防災拠点の設置

取組項目 No. 1 「大規模災害時の被災地支援に有効な広域防災拠点の設置」

【取組概要】

- 岩手県遠野市は、将来の大規模な津波災害の発生に備えて、平成19年に「地震・津波災害における後方支援拠点施設整備構想」を策定し、周辺市町村との連携体制の構築や大規模な防災訓練に取り組んできました。
- 東日本大震災津波では、遠野市が発災直後にいち早く後方支援拠点を形成し、自衛隊等の支援部隊が集結して、津波で甚大な被害を受けた沿岸市町村の支援に当たり、その有効性が確認されました。このほかにも、岩手県市長会などが中心となって、内陸市町村が沿岸被災市町村の支援を行いました。
- 壊滅的被害を受けた沿岸市町村では多くの避難者が発生し、大量の物資が必要となったことから、岩手県は、岩手産業文化センター（通称アビオ）に物資集積拠点を設置して国内外からの支援物資の受け入れや被災地への物資搬送を行いました。
- また、沿岸部の医療機関の入院患者受け入れ機能の低下や多くの重症患者の発生に対応するため、県は広域医療搬送拠点を花巻空港に設置し、災害派遣医療チーム（DMAT：Disaster Medical Assistance Team）が広域医療搬送を行いました。
- 本県では、こうした教訓を踏まえ、内陸・沿岸双方で発生が想定される大規模災害に対応できるよう、県内複数箇所への広域防災拠点の設置を進めています。

取組概要

取組事例① 遠野市防災拠点の後方支援活動について

内陸部の遠野市は、津波災害により行政機能が麻痺した沿岸市町村を支援するため、いち早く後方支援拠点を設置し、被災地支援を行うための体制整備を行いました。

取組事例名

事例説明



遠野運動公園に集結した救援部隊（上空写真）



遠野運動公園で活動を展開する陸上自衛隊

写真・図・グラフ等で事例を説明

遠野市が設置した後方支援拠点では、発災直後に自衛隊、緊急消防援助隊などの救援部隊が全国各地から集結し、遠野運動公園等を活動拠点に沿岸被災地への救援活動を展開しました。



遠野運動公園に集結した大阪府緊急消防援助隊